

生粋の鉄ちゃんなのか、あるいは「センチメンタルな旅」なのか、膝を抱えた姿をただ窓に映す人がいる。滑り込んだホームには写真を撮る人が待ちうけ、発車すると三脚を抱えて小走りに追ってくる。

乗客の中には後方「富士」の車両から巡礼者よろしく機関車を目指すものが出て、「EF66」のプレートに静かに見入っては写真におさめる。

もちろんほとんどの客室がカーテンを閉じていることから、眠りにおちた人や読書にふける乗客もいることがうかがえるが、深夜の寝台特急に人影が絶えないことも事実。野村さんも探索を続ける一人だ。

備え付けの灰皿には国鉄のマークが、窓辺の小さなテーブルには栓抜きが、よく見ると付いていて、これは民営化以前からの客車である証し。2つに折れて開く乗降ドアも今ではめったに見られない仕様。こうしたディテールの発見はうれしいもの。「一夜にして鉄子になったみたい」と野村さんは笑った。

下関駅での「日課」にざわつく車内

目覚めは、遠慮がちなおはようございますの車内放送。瀬戸内の海が霞の中で夜明けを迎えている。東京を発って以降初めての車内販売が始まり、待ちきれない人がカートを迎えに出る。人気は穴子らしい。「穴子、終わりましたあ。あとは幕の内ですう」の声に心底肩を落とす人がいて、可笑しかった。

元特急コンテナ専用の「EF66」機関車（かつては下関発東京行き鮮魚特急「とびうお号」を牽引していた）は、ここ下関で関門トンネル用の「EF81」と交代。次の門司駅で熊本行き「はやぶさ」と大分行き「富士」の6両ずつに分かれる。関門トンネルの両端で日ごと行われるこの機関車の付け替え作業は、鉄道ファンにとって見逃せないイベント。期待感の現われか、車内の空気がざわついてくる。

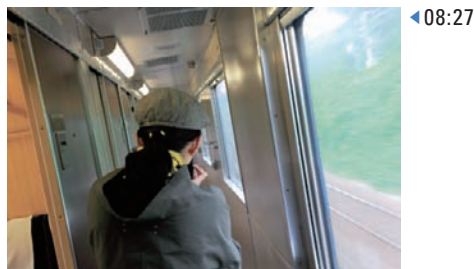
野村さんもまた、感慨に包まれていた。「いつか、ちゃんと撮らなくちゃと思っていました」

そのふるさとの景色に、窓を傾け列車は入っていく。下関着は8時32分。その前に、かろやかなシャッター音が響きはじめていた。083

07:21▶



07:30▶



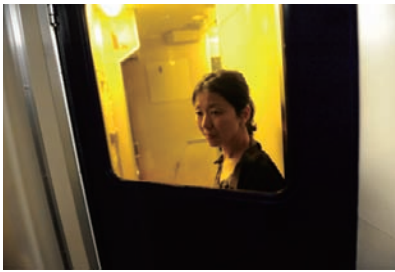
野村佐紀子 (のむら・さきこ)

1967年、山口県下関市生まれ。九州産業大学芸術学部写真学科卒業後、1年間のスタジオ勤務を経て、91年より写真家荒木経惟に師事。主義として弟子をとらない荒木の唯一の弟子となる。青年やカップルの裸体を中心に独特な写真世界を追究。国内各地、ヨーロッパやアジアでも精力的に活動。毎年夏には福岡市で個展を開催。『裸ノ時間』(平凡社)、『愛ノ時間』(BPM)、『黒猫』(t.i.g)、『tsukuyomi』(MATCH & Co.)などの作品集がある。

近刊に『黒闇』(Akiko Nagasawa Publishing)、初のカラー写真集『夜間飛行』(リトルモア)。

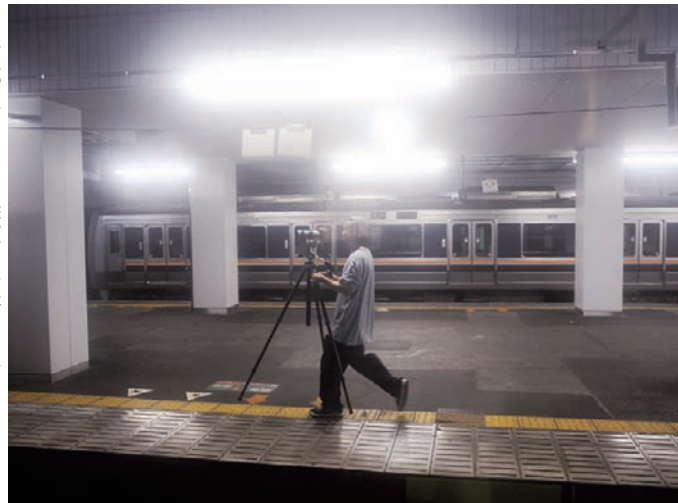


00:54▶



00:37▶

京都駅ホーム、深夜の鉄ちゃんカメラマン



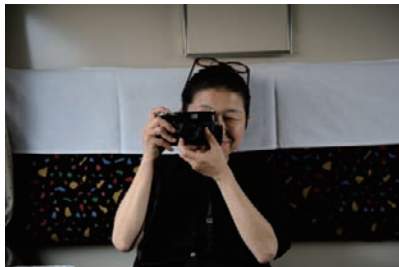
◀01:03



06:19▶



◀07:20



00:41▶



00:37 寝静まったかに見える車内をなおも探索。京都駅5番線のホームには三脚を抱えた「鉄ちゃん」が。シャッター音が響き合う。

00:52 深夜に至ってますます元気な野村さん。

01:03 淀川に架かる鉄橋を渡る。まもなく大阪駅。

06:19 目覚めると瀬戸内海（柳井港付近）。B寝台の開放的な窓で近づいてくるふるさとのさるを思う。

07:28 思い出すことでもあるのか、しだいに無口になっていく野村さん。

08:27 下関に向け、シャッターを切り始める。

00:52▶



◆「富士・はやぶさ」の記号

列車に付いているアルファベット、数字、カタカナなどの記号には、それぞれ意味がある。「富士・はやぶさ」の記号を読み解いてみよう。まず機関車の「EF66」。Eはエレクトリックロコモティブの略で、電気機関車であることを表す。Fは、車で言えば四駆や二駆のように動力の数を表す記号で、アルファベットの6番目Fは動力が伝わる車輪（動輪）が6つあることを意味する。数字は70番台から上が交流、60番台以下は直流の機関車を表し、本州は概ね直流で九州は交流。したがって「富士・はやぶさ」は下関まで直流の「EF66」で走行、関門トンネルを交直両用の「EF81」で渡り、門司から交流で動輪数4つの「ED76」に連結され、富士は大分、はやぶさは熊本へと向かう。

次いで客車につくカタカナの記号について。冒頭のストオは車両の重量を表し、重い順に「カ、ス、オ、ナ」の記号がある。続く口とハは客車の等級を表し、口はグリーン車、ハは自由席や指定席などの普通車両の意味。次のネは、ネル、つまり寝台。フは、付随のフで、車掌車であることを意味する。ということで、オロネとあれば「電源設備を搭載しない軽い車両でグリーン車仕様の寝台車」となる。最後に付く14や15は車両の型。興味のある方は違いを調べてみては。

◆富士・はやぶさ編成表

号車	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
機関車	B寝台	A寝台	B寝台ソコ	B寝台	B寝台	B寝台	B寝台	A寝台	B寝台ソコ	B寝台	B寝台	B寝台
EF66	スハネフ 14 又は 15	スハネフ デラックス オロネ 15	オハネ 15	オハネ 15	オハネ 15	スハネフ 14 又は 15	スハネフ 14 又は 15	スハネフ デラックス オロネ 15	オハネ 15	オハネ 15	オハネ 15	スハネフ 14 又は 15

下り列車 ← 熊本 ————— はやぶさ ————— 大分 ————— 富士 ————— 東京 →